

原子力システム研究開発事業 事後評価総合所見

研究課題名：外部ハザードに対する崩壊熱除去機能のマージン評価手法の研究開発 研究代表者（研究機関名）：山野秀将（日本原子力研究開発機構） 再委託先研究責任者（研究機関名）：山元孝弘（産業技術総合研究所） 再委託先研究責任者（研究機関名）：高田孝→福田武司（大阪大学） 研究期間及び研究費：平成24年度～平成27年度（4年計画） 225百万円		
項目	要 約	
1. 研究の概要	代表的な外部ハザードである異常気象（積雪、強風、竜巻、降雨）、火山噴火、森林火災を対象に、ナトリウム冷却高速炉の崩壊熱除去機能のマージン評価手法、外部ハザード評価手法及び事象シーケンス評価手法を開発することにより、種々の外部ハザードに対する原子力施設の安全性の向上及び炉心損傷までのマージン（安全裕度）を定量的に評価する安全基盤技術の確立を目的とし、以下の研究開発を行う。 1）マージン評価手法の開発 2）外部ハザード評価手法の開発 3）事象シーケンス評価手法の開発	
2. 総合評価	A	種々の外部ハザードに対する原子力施設の安全性の向上および炉心損傷までのマージン（安全裕度）を定量的に評価する安全基盤技術確立のため、代表的な外部ハザードである異常気象、火山噴火、森林火災を対象に、ナトリウム冷却高速炉の崩壊熱除去機能のマージン評価手法、外部ハザード評価手法および事象シーケンス手法の開発を行った。 これまで構築されていなかったマージン評価手法として優れた成果を上げたと評価する。 S) 極めて優れた成果があげられている A) 優れた成果があげられている B) 一部を除き、相応の成果があげられている C) 部分的な成果に留まっている D) 成果がほとんどあげられていない